

2-6. その他の地震

01. 石狩地震 (1834年)

発生日時は不明だが、マグニチュード 6.4(これも推定)。石狩川の河口付近を震源に、その後の調査では、札幌で震度 6 を記録したのではないかとされている。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 219]

02. 三陸沖地震 (1856年)

8月23日13時に発生。北緯40度30分、東経143度30分の日本海溝付近を震源に、マグニチュード 7.8 を記録。最大震度は広尾・浦河などの 5。襟裳岬や十勝で大規模な崖崩れが起こった。また、津波は岩手県で 6m、函館で 3m の記録が残っている。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 219]

03. 留萌地震 (1874年)

2月28日に発生(時刻は不明)。北緯43度54分、東経141度36分を震源に、規模はマグニチュード 6.4 だったといわれる。各地で山崩れや橋梁の崩壊、家屋の損壊を出したが詳細は不明。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 219]

04. 根室半島沖地震 (1894年)

3月22日19時23分に発生。北緯42度24分、東経146度18分の千島海溝を震源に、マグニチュードは 7.9。最大震度は根室・釧路で 5 を記録した。死者1名、負傷者6名、家屋の全半壊は41軒だった。津波は根室で 1.5m、岩手県宮古で 4m の記録がそれぞれ残っている。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 219]

05. 根室北部地震 (1907年)

12月23日10時14分に発生。北緯43度48分、東経145度を震源にマグニチュードは 6.8。地震による被害はさほど出なかったが、震度は別海町で 6 を記録したといわれる。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 219-220]

06. 留萌沖地震 (1910年)

9月8日11時50分に発生。北緯44度12分、東経141度36分と、1874年の地震とほとんど同じ震源地だった。マグニチュード 5.9。留萌・羽幌でそれぞれ震度 4 の記録が残っている。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3), p. 220]

07. 十勝沖地震 (1915年)

十勝沖地震(1915年)3月18日3時46分に発生。十勝沖地震という名称の地震は何回か

発生しているが、観測記録はこの地震がいちばん古い。北緯 42 度 12 分、東経 143 度 36 分、深さ約 100 km(推定)の千島海溝を震源に、マグニチュード 7 を記録。最大震度は浦河の 5。死者は 2 名。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220]

08.留萌沖地震(1918 年)

5 月 26 日 7 時 30 分に発生。北緯 44 度 12 分、東経 141 度 36 分と、8 年前の地震とまったく同じ震源地だった。マグニチュードは 6、小平町・幌延でそれぞれ震度 5 を記録。地震による直接的な被害はほとんどなかった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220]

09.ウルップ島沖地震(1918 年)

9 月 8 日 2 時 16 分に発生。北緯 45 度 30 分、東経 152 度の千島海溝を震源に、マグニチュード 8 と大規模だった。有感地震は静岡県でも観測され、ウルップ島には最大 12m の津波が襲いかかり、60 数名しかいなかった住民のうち 24 名が、津波で死亡した。また、この津波は太平洋を横断してハワイにまで達し(1.5m)、小笠原諸島の父島でも同じく 1.5m を記録している。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220]

10.エトロフ島沖地震(1918 年)

11 月 8 日に発生(時刻は不明)。北緯 44 度 30 分、東経 150 度 30 分の千島海溝を震源に、マグニチュード 7.9 を記録した。2 ヶ月前に発生したウルップ島沖地震と同様、この地震による津波は再び小笠原諸島に到達した。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220]

11.屈斜路湖の地震(1938 年)

5 月 29 日 1 時 24 分に発生。北緯 43 度 33 分、東経 144 度 27 分を震源に、マグニチュードは 6.1。非常に局地的な地震だった。死者 1 名、家屋の全半壊 44 などの被害が山たほか、屈斜路湖内の和琴半島で火山性の噴気が活発化。また、水位の変動や湖底の断層からの有毒ガスの噴出が見られ、この有毒ガスのために屈斜路湖の魚は全滅したといわれる。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220]

12.積丹半島沖地震(1940 年)

8 月 2 日、0 時 8 分に発生。北緯 44 度、東経 139 度 30 分を震源に、地震の規模はマグニチュード 7。最大震度は倶知安・神恵内・留萌・羽幌・苫小牧・八雲などの 4 とさほどではないが、この地震でも津波の被害が大きかった。利尻島で 3m、天塩・羽幌で 2m の津波が発生、京都でも 1m の津波が観測されている。天塩川の河口付近での人的被害が大きく、津波で 10 名が死亡。家屋や漁船の損害が多数出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記

録書』奥尻町(1996/3),p.220]

13.留萌すぐ沖地震(1947年)

11月4日9時9分に発生。北緯43度49分、東経141度01分を震源に、マグニチュードは6.7。留萌・羽幌・倶知安でそれぞれ震度4を記録した。また、津波は利尻島で2m、羽幌で70cmを記録し、漁船などに被害が出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.220-221]

14.カムチャツカ半島沖地震(1952年)

11月5日1時58分に発生。北緯52度、東経162度の千島海溝を震源に、マグニチュードの規模は8.2。カムチャツカ半島や千島列島に最大18mもの津波が発生。北海道から本州の太平洋側にも最大3mの津波が発生し、約1200軒の家屋浸水の被害があった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.221]

15.エトロフ島沖の地震(1958年)

11月7日7時58分に発生。北緯44度18分、東経148度30分、深さ約80kmの千島海溝を震源にマグニチュードは8.1を記録。釧路・鶴居・標津などで震度5。霧多布で2m、根室で81cm、浦河で65cmの津波が観測された。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.221]

16.北海道西方沖地震(1959年)

11月8日22時55分に発生。北緯43度47分、東経140度41分を震源に、マグニチュードは6.2を記録。小樽・石狩・余市・出別・留寿都・鶴川でそれぞれ震度4。直接的な被害はほとんど出なかった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.221]

17.養老牛の地震(1963年)

1月28日13時5分に発生。中標津町周辺の局地的な地震で、震源は北緯43度35分、東経145度。マグニチュードは5.3だった。中標津町で震度5、釧路で震度3を記録。被害は軽微だった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.221]

18.エトロフ島沖地震(1963年)

10月13日14時18分に発生。北緯43度45分、東経149度58分の千島海溝を震源に、マグニチュードの規模は8.1。ウルップ島で最大15mの津波が発生。帯広・浦河・襟裳岬・静内で震度4、根室で1.2m、青森県八戸でも1.3mの津波が観測されている。日本では被害はほとんどなかった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p.221]

19. 羅臼群発地震(1964年)

1月20日2時10分、北緯43度35分、東経145度を震源に発生。マグニチュード4.6の地震を最大に、1月8日～3月3日まで続いた群発地震。1月20日の地震では羅臼で震度4、根室・釧路でそれぞれ震度1を記録している。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 221]

20. 弟子屈の地震(1965年)

8月31日16時49分に発生。北緯43度29分、東経144度26分を震源に、マグニチュードは5.1。弟子屈町で震度5、根室・釧路でそれぞれ震度2を記録。家屋に若干の被害が出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 221]

21. 屈斜路湖の地震(1967年)

11月4日23時30分に発生。北緯43度29分、東経144度16分を震源に、マグニチュードは6.5を記録。弟子屈町で震度5、釧路・網走でそれぞれ震度4。2名の負傷者を出した。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 221]

22. 1968年十勝沖地震(1968年)

5月16日9時49分に発生。北緯40度44分、東経143度35分の千島海溝ならびに日本海溝の境界付近を震源に、マグニチュードは7.9。函館・苫小牧・浦河・広尾でそれぞれ震度5を記録、死者2名(負傷者330名)が出た。津波はえりも町で最大2.7m、三陸海岸では最大5mが観測された。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 221]

23. 幌延町間寒別の群発地震(1968年)

北緯45度、東経142度03分を震源とするマグニチュード4の地震(7月18日1時53分)を中心に、幌延町間寒別で局地的な群発地震が発生。この日、同じ規模の地震が5回も起こった。学校や家屋に若干の被害が出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

24. 北海道東方沖地震(1969年)

8月12日6時28分に発生。北緯42度42分、東経147度37分の千島海溝を震源に、マグニチュードは7.8を記録。根室・釧路・広尾でそれぞれ震度4。根室で1.3m、釧路で72cmの津波が観測された。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

25. サハリン南西沖地震(1971年)

9月6日3時35分に発生。北緯46度24分、東経141度12分を震源に、マグニチュー

第2期 事前対応期

ドは6.9。稚内で震度3を記録した。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

26. 根室半島沖地震(1973年)

6月17日12時55分に発生。北緯42度58分、東経145度57分の千島海溝を震源に、マグニチュードは7.4。根室で1.5mの津波が観測され、家屋の全半壊3軒、負傷者は26名が記録されている。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

27. 豊富の群発地震(1975年)

12月25日の震度3を最大に、宗谷の豊富周辺で局地的な群発地震が12月22日～翌年1月7日まで続いた。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

28. 国後水道の地震(1978年)

12月6日23時2分に発生。北緯44度44分、東経146度58分、深さ約100kmを震源に、マグニチュードは7.7を記録。釧路・根室・帯広・浦河・広尾でそれぞれ震度4が観測された。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

29. 日高支庁西部地震(1981年)

1月23日13時53分、日高支庁西部で局地的に発生。北緯42度25分、東経142度12分、深さ約130kmを震源に、マグニチュード7.1を記録した。負傷者2名、家屋全焼1軒、一部損壊2軒などの被害があった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

30. 幌延の群発地震(1986年)

8月21日の早朝に震度3の地震が幌延で局地的に発生。以後、約2週間も群発地震が続いた。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

31. 北竜の地震(1986年)

11月13日21時44分に発生。北竜町だけの局地的な地震だが、マグニチュードは5.3。道北地方としては、半世紀ぶりのマグニチュード5以上の地震だった。最大震度は5。余震が翌年2月まで続いた。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

32. 日高山脈中部地震(1987年)

1月14日20時40分に発生。北緯42度32分、東経、142度55分、深さ約115kmを震源にマグニチュードは7。局地的な地震だったが、負傷者7名のほか、家屋に若干の被害が出た。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

33. サハリン中部地震(1990年)

5月12日に発生(時刻は不明)。北緯49度15分、東経142度13分、深さ約600kmを震源にマグニチュードは7.8を記録。被害はとくになかった。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222]

34. 幌加内朱鞠内の地震(1990年)

11月11日4時5分、朱鞠内で局地的に発生。マグニチュードは4.7を記録した。最大震度は3。被害はほとんどなかったが、翌年1月まで余震が続いた。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 222-223]

35. 北海道東方沖地震(1994年)

10月4日22時23分に発生。北緯43度22分、東経147度40分、深さ約37mを震源にマグニチュードは8.1を記録。釧路・厚岸では震度6、羅臼・足寄・中標津・浦河・広尾ではそれぞれ震度5を記録。根室の1.7mをはじめ、北海道から本州の太平洋側の各地で津波が観測された。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 223]

36. 三陸はるか沖地震(1994年)

12月28日21時19分に発生。北緯40度27分、東経143度43分を震源に、マグニチュードは7.5、1968年の十勝沖地震とほぼ同じ震源地だったが、八戸で大きな被害が出たわりに北海道にはほとんど波及しなかった。津波は宮古で55cm、八戸で44cmを観測。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 223]

37. 北海道周辺の地震は海底地震が多い。

以上のように、北海道周辺に発生する地震は、千島海溝や日本海溝を震源とする海底地震、日本海沖の海底を震源とする地震、日本海沿岸部を震源とする地震、内陸直下型の地震などに大別される。しかし、なかでもやはり海底地震が多いことや、それによって引き起こされる津波の被害の大きいことが特徴的だといえるだろう。北海道周辺の海底はまことに“熱い”のである。[『北海道南西沖地震奥尻町記録書』奥尻町(1996/3),p. 223]